

一人の納税者として

西中学校 3年 小林 菜々美

日本には約一億三千万人の人がいます。その中で税の使われ方について知っている人はどのくらいいるのでしょうか。きっと、知らない人が多いでしょう。私も三年生の授業で初めて税について学びました。子どもも大人も色々なところで国に税金を払っているのだから多くの人が税について学び、知識・理解を深めることが必要だと思います。

私たちが税と聞いて一番身近に感じるのが消費税です。ですがその他にも所得税・法人税・自動車税などたくさん納めなければならない税金があります。果してそれは何のためにどこで使われているのでしょうか。私たちに身近な税金の使われ方としては公立学校の児童・生徒のための年間教育費として使われています。他にも私たちの生活や安全を守るため、警察・消防費、国民医療費などにも使われています。このように私たちが国に、または県・市に払っていた税は、私たちの安全・生活を守るためのものでもあったのです。それだけでなく、国や地方公共団体は、私たちの活動ではまかなうことのできない住宅や道路の整備、教育や科学技術の振興など幅広い活動を行っています。ですが、そのためにはたくさんの資金が必要であり、その主要な財源は私たちの税金によってまかなわれています。だからこそ単に義務だからと言って税金を納めるのではなく、納税者としてより多くの方が税金のしくみや使い道について十分に知る必要があるのです。また、税金を使う側にもきちんとした知識・理解が必要だと思います。そして国に、国民の生活にプラスになる税金の使い方を考え、活動して行ってほしいと思います。

今、問題となっている少子・高齢化。これも税に深く関係しています。少子・高齢化の問題としてあげられるのが社会保障の費用が増えるということと、その費用を負担する働き手が減っていることです。私の母も老人の手助けをする介護の仕事をしています。色々大変なことばかりで、なげ出してしまいたいと思うこともあるほど大変な仕事だそうです。そんな中、これからもどんどん高齢人口が増加していくと予想されています。それにとまって、高齢者に対する働き手の割合も少なくなると予想されます。老後の安定した生活のための費用の財源の中心は税金です。このまま少子・高齢化が続くと多くの人の負担がかかってしまうと思います。公共サービス、費用の負担など、これからの社会のために多くの人で考え、解決していかなければならない重要な課題だと思います。

税金とはいつも私たちの暮らしととなり合わせにあります。税金がなければ国は成り立たないと思います。税金を払うことはこの国全体で行われている活動です。この国の一員として、一人の納税者として税についての正しい知識・理解を多くの方が学ぶ必要

があると思います。